

～欣浄寺法語メール～2016年5月～

子どもの頃は「巨人、大鵬、卵焼き」の全盛期、名前の通り「すなお」に巨人ファンでした。しばらくプロ野球に関心がない時期を経て長男長女に便乗してにわかヤクルトファンに、そして今は次男への応援で隠れ中日ファンに変身中、なんとも節操のないことです。野球は見るだけでバットを握ったのは子どもの時だけ・・・という方も多いことでしょうが、スポーツの中で野球ほどメジャーなルールはありません。ピッチャーが投げてバッターが打つ、打てば右側つまり一塁側へ走るのは当たり前、文字にすることのもどかしさは誰もが感じることでしょう。

先日亡くなった演出家蜷川幸雄さんを追悼して「異なった感受性をもつ俳優たちと劇に

取り組む演出家は、彼らの様子を見、気になればすぐに声をかけられるよう廊下に陣取った。他の野手と逆方向を見つつも、チームの一員としてともにプレーするキャッチャーのように。そういえば私が知るある大手企業でも、社長室は設けず、社員たちが働いているそのどまん中で社長が執務している。合掌。」と哲学者鷺田清一氏が朝日新聞「折々のことば」に記していました。

なるほど、野球で守備の時ただ一人反対を向いているのがキャッチャーです。新聞に目を通しながら「ああそうか」と新鮮な驚きを覚えるとともに、お参りも一緒ではないかと気づきました。お御堂でまた仏間でただ一人逆を向いておられるのが仏さまです。さて、私たちはどんな名前のチームでしょうか？チ

チーム「〇〇家」 チーム「欣浄寺」 想いは広がります。